

と”にあった。特に高エネルギー原子核反応では多重度は1,000以上になっている。将来多重度は5,000以上になるので、そのための解析方法等の研究が必要である。講演数は24であった。当研究会の開催にあたって次の諸点に留意した。

- ① 統数研の研究課題に関係するトピックスを含む (Higuchi 法, AIC, MEM 法, 変形負二項分布),
- ② 他分野の研究の諸成果の学習 (フラクタル, ウェイブレット法),
- ③ 最新の研究成果の講演 (間欠性, エントロピー生成, ストレンジ粒子の生成, 将来計画),
- ④ 研究課題の紹介 (特に若い参加者のためのプログラム)。

研究会の成果:

- 1) 高多重度の擬ラピディティ分布 ( $\eta = -\ln \tan \theta/2$ :  $\theta$  極角) の取扱いについて, FFT, MEM 法による解析の講演があった (高木 (東北大) 及び鈴木 (松商短)), しかし、それらの解析の仕方及び解釈が確立したものとは言い難い印象を与えた。
- 2) 北川 (統数研), 高安 (神戸大), 山田 (京大) 等の講演は, 参加した物理の研究者には非常に有効であった。
- 3) 並木 (早稲田大) によって, 量子揺らぎを如何に取扱うかの問題が提起されて, 今後に宿題を残した。
- 4) 変形された負二項分布の講演が鈴木と森 (埼玉大) によってされた。
- 5) 29日に早野龍五 (東大・理) 及び永宮正治 (コロンビア大) が講演したので, 標記の研究会としては, 理論と実験のバランスのとれたものになった。

尚, 統数研の研究会の形態としては, もう少し講演数を少なくして, 講演時間に余裕をもたせた方が, 良かったかも知れないと, 反省している。

### 3-共会-9 文献情報のデータベースとその利用に関する研究会

統計数理研究所 村上 征勝

文学, 哲学その他の人文科学の分野に於いては, 未だ統計が十分に利用されているとは言い難い。そこで, 研究者の交流や, さまざまな分野の知見の交換が可能となるべく, 本研究会を開催した。本研究会も今回で4回目を迎え, 当初に比べ, かなりの発展が見られた。統計学にとって言わば未知の領域であった人文科学への応用が, 徐々に増加しつつあるという点で, 今後の研究の発展につながるものと考え。

なお, 今回の研究発表は以下の通りである。

1. 文献情報データベースと社会情報データベースの統合化の必要性  
齊藤たつき (札幌学院大学)
2. 画像付きクイックシステムについて  
伊藤 雅光 (国立国語研究所)
3. マイクロ OCP で見る映画 —— 文章解析ソフトでの洋画字幕の分析  
中井 紀明 (桃山学院大学)
4. 歴史民族資料カードデータベースの作成経験  
照井 武彦 (国立歴史民俗博物館)
5. 日本語の方言音声データベース  
板橋 秀一 (筑波大学)

6. 語順規則による世界の言語の階層クラスタリング  
上田 澄江・伊藤 栄明 (統計数理研究所)
7. 源氏物語の自動単語分割と計量分析  
上田 裕一 (琉球大学), 上田 英代,  
樺島 忠夫 (神戸学院大学), 村上 征勝 (統計数理研究所)
8. 日蓮遺文の真偽判定  
村上 征勝 (統計数理研究所), 伊藤 瑞叡 (立正大学),  
古瀬 順一 (群馬大学), 春日 正三 (立正大学),  
藤本 照 (明星大学), 岸野 洋久 (東京大学), 岩本 渉 (法政大学)
9. 国文学テキストにおけるデータ記述文法  
安永 尚志 (国文学研究資料館)
10. 電子化テキストと本文校訂  
當山日出夫
11. 近現代日本科学技術史編纂のためのタグセットの開発と利用  
大谷 卓史・富岡 克哉・土屋 俊 (千葉大学)
12. TEI J2 の特徴とその評価のこころみ  
土屋 俊 (千葉大学)

### 3-共会-10 考古学における計量分析——計量考古学への道——

統計数理研究所, 帝塚山大学 堅田 直

考古学への計量分析の応用はまだまだ少ない。その原因の一つとして、考古学の研究者と統計学の研究者との交流が少ないことが挙げられる。そこで考古学と統計学の研究者が一堂に会し、日頃の研究成果や研究にあたっての疑問点、研究手法に関する新知見などを交換するために本研究会を開催した。まだ第一回目であり、定まった方向性を示し得る段階ではなかったが、概ね所期の目的を達成し、今後の研究交流の布石となり得たと考えている。

なお、研究会では以下の研究について発表及び記念講演があった。

1. 発掘地区の選択法——ランダムサンプリング法の適用——  
植木 武 (共立女子短期大学)
2. 遺跡内の空間分析  
森本 和男 (千葉県文化財センター)
3. 包含層出土遺物の評価  
藤田 憲司 (大阪府埋蔵文化財協会)
4. 貝塚データベースにおける水産統計資料の利用  
松井 章 (奈良国立文化財研究所)
- [記念講演] 数量化理論はどのようにして創られたか  
林 知己夫 (統計数理研究所)
5. 考古資料分類作業における数量化 II 類  
松永 幸男 (鹿児島大学埋蔵文化財調査室)
6. 撚糸文土器の計量分析  
中津由紀子 (ICU 考古学研究センター)
7. 縄文時代の剥片生産について  
松山 聡 (大阪文化財センター)
8. 古墳出土のしおでの多変量解析  
宮代 栄一 (朝日新聞社福岡本部学芸部), 谷畑 美帆 (東京芸術大学)
9. 計量分析からみた須恵器の容量変化  
吉川 義彦 (関西文化財研究会)
10. 能登の中世土師器の編年  
今井 淳一 (石川県羽咋市教育委員会)
11. 土器の X 線回折分析と数量化 III 類  
堅田 直 (統計数理研究所)
- [記念講演] 計量考古学への道  
村上 征勝・堅田 直 (統計数理研究所)